

13) 会津中央病院他科入院患者および関連老人施設入所者の当科受診症例に関する臨床的検討

○堤 貴洋, 宮島 久, 吉開 義弘
勝見 祐二, 強口 敦子, 本間 濟
酒井 進, 熊野 仁也, 篠島 美香
(会津中央病院歯科口腔外科)

会津中央病院歯科口腔外科は平成12年4月に開設して以来、口腔外科的疾患を中心に診療を行っている。また、会津中央病院は関連病院や老人施設を含めると1000~2000床を有する施設で、その大半は基礎疾患を持つ高齢者であり、当科の重要な役割の中に、これらの施設入所者や他科入院症例に対する歯科処置を行うことによるQOLの向上がある。今回、当院関連施設入所者と他科入院症例の当科受診状況を把握する目的に、本検討を行った。検討対象は、平成17年9月~本年8月までの1年間に、当科を受診した再来初診を除く新患症例1667例のうち、他科入院症例、会津温泉病院入院症例、関連の特別養護老人ホーム、介護老人保健施設入所者188例とした。結果：1) 月別症例数は、全体の新月数と比べ、時期に若干のずれがあった。2) 男女比では男性に多かった。3) 年齢分布では、高齢者に多かった。4) 市外在住者が多かった。5) 疾患内訳では、外傷などの急性期疾患、循環器科や呼吸器科からの口腔管理依頼、長期療養症例の歯牙処置依頼が多かった。6) 依頼元診療科は多岐に渡っていたが、脳神経外科や整形外科など長期療養を要する疾患群を有する科からの依頼が多かった。7) 有する基礎疾患は循環器疾患が最も多かったが、急変する可能性の高い重篤な症例も少なからず含まれていた。8) 痴呆などの精神異常、片麻痺などの運動異常の症例が多く、治療に際し、マンパワーの必要な症例が多かった。9) 抗血栓療法および血液抗凝固療法を行っている症例が多かった。10) 歯科治療上考慮しなければならない化学療法(抗癌剤)を行っていた症例も散見された。11) 口腔ケア依頼の症例が増える傾向にあった。

以上のように、他科や他施設からの依頼症例は、口腔外科的な救急症例、重篤な基礎疾患を有する歯科症例、精神障害や運動障害に対する歯科症例、口腔ケア、長期療養症例に対する歯科症例などが

主体を成していた。

14) 審美性に配慮した小臼歯中間欠損に対するインプラント治療

○阿部 剛一, 山森 徹雄, 岡山 英樹, 石橋 賢一
大野 敦司, 関根 貴仁, 早田 幸夫, 金 秀樹¹
洪澤 洋子¹, 大野 敬¹, 清野 和夫
(奥羽大・歯・歯科補綴, 口腔外科)

【緒言】近年においては審美性に対する要求が高まりつつあり、歯科用インプラント治療においても審美的回復が求められることが多い。今回、1歯の中間欠損に対するインプラント治療に際して審美性に配慮した症例を経験したので報告する。

【症例】患者は55歳の女性で、クラウンを装着していた下顎左側第二小臼歯が歯根破折と診断され、紹介により本学附属病院を受診した。紹介元歯科医院で抜歯後、治療方針を検討した結果、左側臼歯部の咀嚼障害を主訴に再来院した。

下顎左側第二小臼歯欠損に対して歯科用インプラントによる補綴治療を行なうこととした。頬側骨壁の吸収が進行していたため、一次手術時にインプラントを隣在歯CEJの3~4mm根尖側に埋入した。二次手術時にはインプラントを被覆するように骨が形成され、頬側の陥凹は回復した。またインプラント上の非可動粘膜を根尖側に移動して縫合し頬側非可動粘膜の幅径および厚径の増大をはかった。これによって上部構造金属色の透過を防ぐことができた。暫間冠装着時に間隙がみられた下部鼓形空隙に対して、暫間冠の隣接面豊隆を調整することで歯間乳頭の誘導を試み、約3カ月後に間隙が消失するに至った。この歯間乳頭形態は、陶材焼付鑄造冠タイプの上部構造装着後6カ月経過後においても維持されている。

【考察】下顎左側第二小臼歯部の頬側骨壁に吸収による頬舌的、上下的に陥凹していたため、審美的回復には不利と思われたが、インプラント埋入位置の設定、二次手術時および暫間冠による軟組織のマネージメントによって歯間乳頭部および頬側の豊隆とも天然歯部に近い審美的状態に改善し維持できている。ただし歯間乳頭部の形態変化には、両隣在歯の歯周組織におけるクリーピングの影響も考えられる。